

(別記)

2020年度和水地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

○作付状況

全耕地面積に占める主食用米面積の割合は約70%である。中山間地帯の特性を活かし、良質の米を生産、その評価も高い。転作作物については、戦略作物ではWCS用稲、飼料作物、小麦の順に占める面積の割合は多い。また、冬春トマト、夏秋ナス、冬春ナスの3種類が野菜指定産地を受けており、その中でもナスの栽培面積は年々増加傾向にあり当町における主要な作物となっている。

○課題

不作付地の拡大・主食用米の転換の2点が主に挙げられる。

1点目の不作付地の拡大は、農業者の高齢化による農家戸数の減少などが進み、水田の維持・管理が課題となっている。それに加え、有害鳥獣被害でやむなく作付できない農地もあり、不作付地の拡大に拍車をかけている。

2点目の主食用米の転換については、主食用米から新規需要米への転換が促進される動きの中で、中山間地帯である当地域は、作付に不利となる条件が多いことと、供給先・受入先が不十分で転換に踏み切れていない現状がある。また、周辺地域に比べ主食用米の販売価格が高く、米の産地として、これまで推進してきたことも大きな要因となっている。

その他に、麦・大豆については、排水不良等により単収の低下を招いており、是正が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

作付目安を中心に、需要に応じた米生産を調整する中で、これまで同様、米の主産地として品質の高い米作りを推進する。また、JA等と連携した外食用の多収性品種の推進によって、米による所得増加を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

作付目安を基に需要に応じた米生産を調整する中で、水田を活用して生産できる飼料として作付面積の増加が期待されている。自給飼料の作付拡大を推進するとともに、貴重な国産穀物として、安定した作付がなされるよう支援を行う。

また、畜産農家と連携を行うわら利用や堆肥の供給など、耕畜連携の取組を推進し水田の有効利用を図る。

イ 米粉用米

多収品種の導入や、多収生産に向けた効率的な生産により、単収の向上、生産コストの低減などの取組を進め、需要に応じた生産を支援するとともに主食用米からの転換を推進する。

また、産地交付金を活用して資源循環の取組を推進する。

ウ 新市場開拓用米

国産米の新たなマーケットを確保・拡大し、JA等と連携した輸出用米の推進を図る。

エ WCS用稲

畜産振興と連携し、地域の畜産農家を中心に新たな供給先の開拓を進める。高性能機械導入などを促進し、作業量の増加やコスト低減を図る。

また、産地交付金を活用して資源循環の取組を推進する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

排水不良等の要因によって、品質や収量の低下が課題となっている。補助事業による暗きょ施行等の排水対策を進め、品質向上及び収量増加を図り、特に麦の作付面積を増加させ、水田フル活用に努める。

また、産地交付金を活用して、二毛作を推進するとともに、飼料作物の資源循環（耕畜連携）の取組を推進する。

(4) 高収益作物（園芸作物等）

産地指定を受けている「なす」を地域振興作物の中でも重点品目として位置づけ、更なる産地化を目指す。

また、産地交付金を活用し作付を支援することで規模拡大や生産者拡大を進め、いづれは地域を代表するブランド作物を目指す。

なお、当地域では転作や農地保全を目的とした水田への野菜の作付が多く、今後このことは欠かせない。産地交付金の活用により、現行の栽培面積の維持、または、高収益作物への転換を促す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020 年度作付目標面積 (ha)	2021 年度作付目標 面積 (ha)
主食用米	533ha 2,653t	547ha 2,713t	547ha 2,718t	547ha 2,713t
飼料用米	2ha	2ha	11ha	2ha
米粉用米	8ha	8ha	5ha	10ha
新市場開拓用米	1ha	1ha	3ha	3ha
WCS 用稲	25ha	25ha	20ha	25ha
麦	14ha	14ha	15ha	15ha
大豆	1ha	1ha	2ha	2ha
飼料作物	8ha	8ha	6ha	10ha
その他地域振興作物	45ha	94ha	98ha	95ha
なす	14ha	14ha	19ha	15ha
その他野菜	29ha	77ha	77ha	77ha
花き・花木	1ha	1ha	2ha	2ha
その他作物	1ha	1ha	0ha	1ha

※主食用米の作付予定面積（2020 年度）、目標値（2021 年度）において使用した単収は
496kg/10 a

※主食用米の 2020 年度作付目標値において使用した単収は 497kg/10 a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2019 年度	2020 年度
1	なす	重点品目への助成 （基幹）	対象面積	13.8ha	19ha
2	麦・大豆・ 飼料作物	二毛作加算 （二毛作）	対象面積	17.3ha	(15ha) 18ha
			水田利用率	80.1%	80.0%
3・4	飼料用米（基 幹）・米粉用米 （基幹）・ 飼料作物・WCS 用 稲 （基幹・二毛作）	わら利用 （耕畜連携・基幹） 資源循環の取組 （耕畜連携・基幹・ 二毛作）	対象面積	9.8ha	37ha
			実施率	25.7%	60%
5	新市場開拓用米 （輸出用米含む）	新市場開拓用米（輸 出用米含む）におけ る多収性品種の取組	対象面積	0.5ha	1ha
6	野菜・花き	地域振興作物への助 成（基幹）	対象面積	28.6ha	77ha
			耕作準備作物（地 力増進・景観形成 作物）からの転換 面積	0.8ha	9.2ha
7	野菜・花き	施設園芸加算 （基幹）	対象面積	13.1ha	16ha <2022 年度>

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）